

地震キャットボンド「Kizuna Re III」の発行について
～日本初、サステナブル・ディベロップメント・ボンドを活用した新たな仕組みの構築～

東京海上ホールディングス株式会社(取締役社長グループ CEO 小宮 暁、以下「当社」)は、子会社の東京海上日動火災保険株式会社(取締役社長 広瀬 伸一、以下「東京海上日動」)を通じて、日本国内の地震リスクを対象とするキャットボンド^{※1}「Kizuna Re III シリーズ 2024-1 クラス A」(以下、「Kizuna Re III」)を発行しました。本キャットボンドの元本は、世界銀行グループの国際復興開発銀行(以下「IBRD」)が発行する開発途上国支援のためのサステナブル・ディベロップメント・ボンド(以下「SDB」)に投資いたします。こうした仕組みの構築は、日本で初めての取り組み^{※2}となります。当社は、グループのサステナビリティ戦略の一環として、キャットボンド発行を通じた開発途上国支援にも資する仕組みを構築し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

※1 地震・台風リスク等の自然災害で、発生率は低いが発生した場合の損害規模が大きい異常災害リスクを証券化し、リスクを金融・資本市場に転嫁する仕組み。

※2 当社調べ(2024年3月時点)

1. 背景

東京海上グループは、「事業活動を通じて社会課題を解決し、サステナブルな社会を実現する取り組み(サステナビリティ戦略)」を中長期的な成長エンジンとして位置付け、気候変動対策や災害レジリエンスの向上、自然の豊かさを守る取り組みを推進しています。

東京海上日動は、自然災害大国である日本において、災害に対応する商品・サービスを将来にわたって安定的に提供し「災害レジリエンスの向上」に貢献していくため、伝統的な再保険キャパシティの調達に加えて継続的にキャットボンドを発行してきました。こうした中、東京海上日動はサステナブルな社会の実現に貢献するため、従来のキャットボンドの発行に留まらず、ESGの取り組みにつなげる新たな仕組みを日本で初めて構築しました。

2. 地震キャットボンド「Kizuna Re III」の概要

＜Kizuna Re III＞	
発行体	Kizuna Re III Pte. Ltd.(シンガポール)
スポンサー	東京海上日動
対象リスク	日本国内の地震
トリガー	3年間累積の最終正味損害額(一定規模以上の地震のみ対象)
発行金額	額面 100 百万米ドル
発行年月日	2024年3月21日
満期年月日	2029年4月6日

本キャットボンドは、将来の巨大地震発生に備えるための資金を調達するため、シンガポールに設立した特別目的再保険会社である「Kizuna Re III Pte. Ltd.」によって機関投資家向けに発行したものです。

日本国内で発生した地震によって生じた損害が、あらかじめ設定した条件を超過した場合に、その超過額に応じて投資家へ償還予定の元本の一部または全部を、特別目的再保険会社「Kizuna Re III Pte. Ltd.」から当社への支払再保険金として充当します。

機関投資家から調達した本キャットボンドの投資元本は、IBRD 発行の SDB で運用されます。SDB は、開発途上国支援のための融資プロジェクトの原資となる金融商品であり、投資元本は、開発途上国の課題解決や気候変動対策といった様々な分野や地域のプロジェクトに活用される予定です。

【スキーム図】



3. 今後について

当社は、「お客様や社会の“いつも”を支え、“いざ”をお守りする」というパーパスのもと、創業以来、時代とともに変わりゆくさまざまな社会課題の解決に貢献することで、持続的・長期的に成長してきました。当社は、これからもパーパスを起点に社会課題を解決し、サステナブルな社会の実現に貢献してまいります。

SDBに関する詳細情報

<https://treasury.worldbank.org/en/about/unit/treasury/ibrd/ibrd-sustainable-development-bonds>

以上